

令和 4 年度 福島大学基金研究推進事業助成による成果報告書

2022 年 6 月 1 日

学 長 殿

所属部局・職名 共生システム理工学研究科・修士 2 年

申請者名 高橋 宏都

| | |
|---------------------|---|
| 助成の区分 (該当するものに○) | ○学会参加助成・学術出版助成・学術論文掲載料等助成 |
| 事業名 | 日本経営工学会 2022 年春季大会 |
| 成果の概要 | <p>【日時】2022 年 5 月 22 日, 12:10~12:30 【場所】神奈川大学みなとみらいキャンパス (オンラインで参加) 【参加費】8,000 円 【研究内容】 近年、継続的に安定収益を生み出す事業の展開が必要とされている一方、イノベーションの創出も必須であるが既存事業に依存しがちな企業において、これらの両立は困難である。そのため、本研究では、既存事業を行いながらもイノベーション創出を可能にするための、両利きの経営の導入に向けた組織運営について考察した。 具体的には、初めに、バリュー・プロポジションキャンパスによる、両利きの経営の導入に向けた考察を行い、次に両利きの経営を実現するための組織構造をオープン・イノベーション、パーパス、シェアリング、トップダウン経営の概念を用いて考察した。 そして、オープン・イノベーション、シェアリング、パーパス、トップダウン経営の概念を用いた3つの組織構造を提示した。</p> <p>【成果】 この発表で私は、自分の考えを相手に伝えることがどれほど難しいかということ学んだ。 本大会では、スライドを見せながら発表を行うスタイルであったため、事前にスライドを作成し、時間を計り発表練習を数回行った。練習では、私の研究内容を把握している教授や同じ研究室の学生を相手に発表したため、研究内容について理解できないということが発生しなかった。しかし、本番の質疑応答では研究内容について詳しく説明することや、研究がどのように社会に役立つかを説明したため、初めて私の研究を聞く人にとっては、研究内容を把握するのに十分な伝え方ができていないと感じた。そのため、分かりにくい専門用語を言い換えることや、伝えたいことをしっかり強調して話すことが重要であると学んだ。 そして、今回はオンライン発表ということもあり、発表中に聞き手の反応が分からなかったため、焦ってしまう所もあった。しかし、これからもオンラインで発表する機会があるため、自分にとってはとても貴重な経験をさせてもらった。 この学会に参加したことで、多くのことを学べたため、これからの学会や他の発表する機会学んだことを活かせるように精進していく。</p> |